

令和 6 年度第 4 回狭山市社会教育委員会議 会議録

開催日時 令和 7 年 1 月 2 3 日（木） 1 4 時から 1 6 時まで
開催場所 狭山市立中央図書館 視聴覚室
出席者 石塚委員 宮地委員 八瀬邊委員 中間委員 河口委員 上西委員
栗原委員 片山委員 太田委員 渡邊委員 菅野委員 田中委員
柴野委員 平岡委員
欠席者 佐野委員 鈴木委員 角田委員 恵比須委員 品田委員 長谷川委員
事務局 五十嵐生涯学習部長
石井社会教育課長 小高 山口 福村 立花 小暮
傍聴者 0 名

1 開 会

2 生涯学習部長あいさつ

3 議長あいさつ

4 議事

（1）令和 7 年度以降の家庭教育支援事業について

事務局より説明を行った。

委員 家庭教育学級の委託を終了して親の学び講座を実施することとした経緯と講座実施側（PTA 関係者）が今後、企画力を身につける機会はあるのかどうか。また、企業内家庭教育講座について実際に実施見込みのある企業はあるのか教えてほしい。

事務局 委託を終了し、親の学び講座を実施することとした経緯については、家庭教育学級の参加者が年々減少傾向にあるということと、委託事業に伴う契約事務が負担であるという声が PTA の保護者からあり、その負担が大きいため、家庭教育学級を開催しないという選択をする PTA が増加したことがあります。

家庭教育について学んでほしいという意図から家庭教育学級を実施していたものの、本来の趣旨と異なり、形骸化していることから委託を終了する方針となりました。

ただ、家庭教育について学ぶことは非常に重要なことだと認識しておりますので、今後も PTA や保護者会の単独事業として続けていく学校に対しては、講座内容や講師等の情報提供を継続していく予定です。

また、今後も講座を実施したいという PTA の方がいるようであれば、単位 PTA の実施ではなく、市内全域を対象とした家庭教育の講座を実施することが出来る仕組みを作っています。

企業内家庭教育については、今年度市内の 1 つの企業で試験的に実施しました。また、市役所内でも試験的に命の授業をテーマに講座を実施しました。来年度以降は、市内の企業向けに案内をしていきたいと考えています。

委員 今回の家庭教育に関する変更について、若干残念と思う部分もあるが、ぜひ学校単位で継続できるところは継続していただきたい。親子で学ぶことが出来る貴重な機会であり、家庭教育は何よりも根底にあるものだと思うので、大事にしていきたい事業だと思っています。家庭教育に対して身構えている方もいるかもしれませんが、もう少し楽に保護者の興味がある部分で実施しても良いという認識で実施できるとより楽しい事業になるのではないかと思います。

(2) 協議テーマ「地域の担い手としての当事者意識」について

事務局より協議の方針を説明したのち 3 グループに分かれて協議を行い、その内容を全体で共有を行った。

Aグループ 単発のイベントではなく、定期的に行うこと。イベントを通じてコミュニケーションの輪を広げることで多くの人を巻き込む仕組みづくり。さらに実行委員たちがつながることでそれぞれの得意分野が分かるようになる。得意分野をもった人をまとめた名簿を作成し、イベント企画時に名簿の中から気になる人をピックアップしてその人を中心に次のイベントを展開する。また、シニア層に対する粗大ごみの処分や買い物の支援等も大事だと考えています。

Bグループ 防災防犯、地域の活性化、学習支援や子ども食堂、伝統芸能・文化をどう守るか。子育て支援についてざっくりばらんに意見が出た。地域の防災防犯については中学生が活躍したというニュースを聞くことが多いので、教職員の負担なく、中学生を巻き込む工夫がないかと思っている。子ども食堂や学習支援もニーズはあるものの、人が集まらない。運営する側も人手が不足している。地域の活性化という点では、移住してくる方はその地域に興味があって、移住してくるので、そういった方々を巻き込むことで地域の活性化に向けた様々なコミュニティを作り、活動することが出来ないかと考えました。

Cグループ 色々なエネルギーを持った人や情報が分散しているのはもったいないので、7 年度に全ての小中学校に導入予定の SCSC を核として、すべての人材を集中させる。市民大学を利用した人材育成。大学や市内中学校高校との連携による地域貢献活動の推進。公民館の有効活用。SNS の活用による広報。多種多様な世代が参加するワークショップの開催。他の自治体の成功事例の徹底的な研究。社会福祉協議会との連携。学校で使用しているスクリレのような市民に対する情報提供ツールの開発導入。

5 事務連絡

6 閉会 副議長